



# J R 連 合 NEWS

J R 産 業 に 集 う  
す べ て の 仲 間 の  
J R 連 合 へ の  
総 結 集 を !!

2024 年 度

No. 1

2024年6月21日

日本鉄道労働組合連合会

## J R 連 合 第 34 回 定 期 大 会

# 強くしなやかなJR産業を築くために組織と運動を磨き、 責任ある活動を全力で押し進めよう！



新年度の決意を述べる荻山会長

J R 連 合 は 6 月 18 日、京 都 テ ル サ に お い て 第 34 回 定 期 大 会 を 開 催 し た。大 会 に は、来 賓 と し て 交 運 労 協 の 住 野 敏 彦 議 長、交 運 共 済 の 本 田 雅 明 専 務 理 事 ら に お 越 し い た だ き、連 帯 の 挨 拶 を 受 け た。ま た、連 合 の 芳 野 友 子 会 長 か ら は、ビ デ オ メ ッ セ ー ジ を 頂 戴 し た。

会 場 に は 代 議 員、傍 聴 者 な ど 約 200 人 が 集 ま り、熱 心 か つ 真 摯 な 討 議 の う え、2024 年 度 の 運 動 方 針 を 満 場 一 致 で 決 定 し た。今 回、代 議 員 56 名 の う ち 女 性 が 11 名 で あり、初 め て 女 性 組 合 員 比 率 を 超 え、2 年 前 に 策 定 し た 「第 4 次 男 女 平 等 参 画 行 動 目 標」の 一 部（議 決 機 関 へ の 組 合 員 比 率 に 応 じ た 女 性 参 画 機 会 の 確 保）が 達 成 さ れ た。

冒 頭、荻 山 市 朗 会 長 は、来 年 に は 国 鉄 の 存 続 期 間 を J R が 超 え る こ と に 触 れ、J R 北 海 道・四 国・貨 物 の 将 来 像 や、地 方 に お け る 鉄 道 路 線 の あり 方、貨 物 鉄 道 へ の モー ダ ル シ フ ト、高 速 鉄 道 ネ ッ ト ワー ク 建 設、全 て の 業 種 に 共 通 の 深 刻 な 労 働 力 不 足 な ど、山 積 す る 重 たい 課 題 の 克 服 に 向 け、「効 果 や 時 間 を 強 く 意 識 し て 運 動 を 推 進 す る」と 決 意 を 述 べ た。ま た、現 在、厚 労 省 の 有 識 者 検 討 会 で 労 働 基 準 関 係 法 制 の 見 直 し 論 議 が 進 め ら れ て い る こ と に も 触 れ、強 い 課 題 認 識 と 対 応 に か か る 考 え 方 を 示 し た。

そ の 他、安 全 の 確 立、組 織 拡 大 と 労 使 関 係 の 強 化、産 業 政 策、労 働 政 策、の 4 点 に 亘 っ て 課 題 認 識 や 取 り 組 み に 係 る 考 え を 提 起 し た。

議 事 で は 2023 年 度 の 経 過 を 報 告 す る と と も に、会 社 再 編 に 伴 う 組 織 再 編 で 新 た に 加 盟 し た 「J R 東 海 リ テ イ リ ン グ・プ ラ ス 労 働 組 合」を 紹 介 し、満 場 の 拍 手 で 迎 え 入 れ た。ま た、新 た な 「中 期 労 働 政 策 ビ ジ ョ ン（2024-2028）」を 披 露 し た ほ か、2024 年 問 題（建 設・物 流）へ



新規加盟「JR 東海リテリング・プラス労組」



「団結がんばろう」で心を一つに

の 対 応 や グ ルー プ 全 体 で の 労 働 条 件 向 上、交 運 共 済 「総 合 共 済」の 制 度 変 更、組 織 強 化・拡 大 な ど、新 年 度 の 運 動 方 針 に つ い て 提 起 し た。そ の 後、計 11 名 の 代 議 員・特 別 代 議 員 か ら 質 疑・発 言 が あり、執 行 部 か ら 答 弁 の 後、全 議 案 を 満 場 一 致 で 可 決 し た。

大 会 の 終 盤 に は、滋 賀 県 知 事 の 三 日 月 大 造 氏 が 会 場 を 訪 れ、連 帯 と 激 励 の 挨 拶 を 受 け た。最 後 は、荻 山 会 長 の 「団 結 が ん ば ろ う」で 新 年 度 を 力 強 く ス ター ト さ せ た。

< 添 付 資 料 > 大 会 宣 言

# 大会宣言—(案)—

私たちは本日、「京都テルサ」で第34回定期大会を開催し、2024年度の運動方針を満場一致で決定した。

JR産業はコロナ禍の収束後も、極めて流動的で変化の激しい社会、すなわち‘産業の大転換期’に直面している。この間JR連合は、社会で果たすべき役割を見つめ直すとともに、産業と組織の抱える構造的な課題を明確化し、中長期的な視点に基づく政策提言を策定し、発信してきた。引き続き、「JR連合ビジョン」で示しためざすべき労働組合の姿を徹底して追求するとともに、すべての仲間が生き活きと働き、明るい将来展望を描くことができる職場を創り上げていく。

安全の確立については、福知山線列車事故をはじめとする重大事象から得た教訓を決して風化させず、悲劇を絶対に繰り返さないという決意のもと、職場から安全を創り上げる運動を推進する。死亡労災や4大労災が続発している事実を重く受け止め、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重点テーマに据え、加盟単組とともに事故を未然に防ぐ取り組みを推進する。エリア連合やJRグループ労組連絡会と連携し、すべての職場から安全を創り上げ、仲間を守る取り組みを推進する。

組織の強化・拡大においては、仲間に徹底して寄り添う世話役活動を展開し、組合員と共に歩み続ける。国鉄世代からの急激な世代交代が進む中、JR連合運動の担い手、運動の継承と強化が喫緊の課題である。男女平等参画、ジェンダー平等の観点からも多種多様な人財が活躍できる運動と組織を創り上げていく。グループ会社を含め、未だ集团的労使関係に守られていないJR産業に働くすべての仲間へ連帯の輪を広げていく。また、労働基準関係法制見直しの動きに対しては強い危機感を持ち、労働者を適切に代表する労働組合の重要性を多方面に訴えていく。

産業政策については、山積する多くの課題に対し、場当たりの対処するだけでなく、中長期的な視点でJR産業の持続的成長・発展をめざす取り組みを展開していく。策定した政策提言を徹底して活用し、連合や交運労協、会社等すべての関係者との情報交換や課題認識の共有化を図り、政策の実現に向けた取り組みを展開する。とりわけ、国鉄改革から間もなく38年が経過し、旧国鉄よりも長い歴史をJRが歩み始めるにあたり、陳腐化する既存ルールの改廃は待たなしの状況にある。その解決を図るためにも、JR連合国会議員懇談会をはじめ、関係する国会議員・地方議員、行政との連携を一層深めるとともに、来る国政・地方選挙では一人でも多くの仲間を政界へ送り出す取り組みを展開する。

労働政策については、JR関係労働者のあるべき労働条件・環境を明確化した新たな「中期労働政策ビジョン」を加盟単組とともに策定した。掲げる目標の達成に向けて、離職の防止と採用競争力強化を強く意識し、産業間格差やグループ内格差の是正も念頭に置きながら、会社には「人財への投資」を引き続き求め、中長期的な視点に立った取り組みを積み重ねていく。

不確実性の増す社会・時代を生き抜いていくためには、JR産業に集うすべての仲間・関係者が「ONE TEAM」となり、様々な課題に立ち向かっていかなければならない。本定期大会で決定した運動方針に基づく活動を、グループ労組を含めたすべての加盟単組、組合員が一丸となって取り組み、JR産業の持続的成長と組合員・家族の幸せ実現に向け邁進する。

以上、宣言する。

2024年6月18日

日本鉄道労働組合連合会（JR連合）  
第34回定期大会